

授業科目	日本語教育方法論演習 I				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	溝部 エリ子							
授業概要	日本語教師に必要なのは理論と実践のバランスである。本演習では日本語教育方法論 I, 日本語教育方法論 II で学んだ知識をもとに、理論を実践の場に生かす訓練をする。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	30	20	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)						50	50	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				30			30	
態度(DP4-2)					20		20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。	講義・演習	復習: 該当部分の復習	60
2	文字の指導について学ぶ 「文字の指導」について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
3	語彙の指導例について学ぶ 語彙の指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験1: 文字指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
4	機械的ドリルについて学ぶ1 機械的ドリルについて、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験2: 語彙指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
5	機械的ドリルについて学ぶ2 機械的ドリルの指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。模擬授業体験3: 機械的ドリルの指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
6	コミュニケーションドリルについて学ぶ コミュニケーションドリルの指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験4: 機械的ドリルの指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
7	ロールプレイについて学ぶ ロールプレイの指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験5: コミュニケーションドリルの指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
8	音読指導について学ぶ 音読の指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験6: ロールプレイの指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
9	説明・指示・問いについて学ぶ 説明・指示・問いの指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験7: 音読指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
10	フィードバックについて学ぶ フィードバックの実践例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験8: 説明・指示・問いに焦点を当てた指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
11	動き・表情・ジェスチャーについて学ぶ 動き・表情・ジェスチャーの指導例について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験9: フィードバックに焦点を当てた指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
12	教材・教具・教育機器の利用1 教材・教具・教育機器について、エクササイズと話し合いを通して学ぶ。 模擬授業体験10: 動き・表情・ジェスチャーに焦点を当てた指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
13	教材・教具・教育機器の利用2 教材を作成する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
14	作成教材について発表する 作成した教材を、クラス全体に発表する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60

	この授業のまとめを行う。			
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	日本語教育方法論 I 及び II で学んだこと。			
テキスト	『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上巻』川口義一・横溝紳一郎(ひつじ書房)(2005) 『クラスルーム運営』横溝紳一郎(くろしお出版)(2011)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『ドリルの鉄人』横溝紳一郎(アルク・オンデマンド)(1997) その他は、授業中に指示する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席と積極的な参加を重視します。 2. 欠席 1 回につき、「出席を含む授業態度」が 3 パーセントずつ減点されます。 欠席 5 回で自動的に不可となり、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とみなされますので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと 3. 模擬授業体験・教材作成等、「実際にやってみる」ことが多い授業です。試行錯誤の中から、たくさんのごとを学んでください。 4. 全て遠隔授業行います。 			

達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とします。
---------------	-------------------------------